

和漢兼作集

和漢兼作集卷第五

夏部下

夏日言志

すいけいばんでんむなしくしょうめつす

さんてうのあかつきのこゑほどほごうぶなり

大納言源通具

水蛭晩点空生滅

山鳥曉声幾有無

夏夜

こうやにまどしづかなりほたるわたりてのち

中納言紀長谷雄

空夜窓閑蛩度後

深更軒白月明初

しむかうにはのきしろしつきあきらかなるはじめ

水郷蛩影多

かうじんわきまへずぎよりやうのひ

菅原資高朝臣

江人不弃漁梁火

海客可迷牛漢星

かいかくまどひぬべしぎうかんのほし

螢飛水竹間

あかつきさえんいてんずればのこりのともしびすさまじ

藤原有信朝臣

ゆふべそうろをすぐればふたつのたまなる

暁点沙煙残燭冷

暮過叢露両珠生

暗螢穿竹見

すいはくともしびこもりてあきかうかうたり

一条院御製

へきうんほしすきてあかつきくわうくわうたり

翠箔灯籠秋耿耿

碧雲星透暁煌煌

螢飛林寺叢

いようたいにあかつきいたりてともしびをそむけるおもひ

高倉院御製

てきほにつゆみがきてたまをかへすこころ

松台暁到背灯思

萩浦露螢還玉心

夏御歌

もえまさる思ひやしげき夏草の

露をまみだと飛ぶほたるかな

入道中務卿宗尊親王

やきすてしあとも見えぬ夏草に

いまはたもえてとぶほたるかな

寛和内裏歌合

按察使藤原行成

いさり火のうかべる影を見えつるは

なみのよるしるほたるなりけり

「国歌大観」より